

今日も獲ったで

「獲ったで、今。シカ2頭」
 「今日も獲ったの、ミツさん。おとつい
 (一昨日)も獲ったもんね。あれ、昨日は？」
 「昨日はな、デスクワークだ。ニホンジ
 カの管理捕獲の集計と書類作成をやっ
 てるよ」

楽しそうな会話を続ける二人は、宮澤
 三明さんと野牧綾乃さん。ぱっと見、優
 しいお父さんとお嬢さんのよう。

「そう、そこを右に行った送電線の近く
 だ。70mはあった(離れてた)な。散弾
 銃で仕留めたぞ」

「すごいね」

大ベテランと、弟子

宮澤さんは龍山町瀬尻で暮らす63歳。
 猟師歴42年の大ベテラン。

地域の人たちからは「ミツさん」の愛
 称で親しまれている(以下、ミツさん)。

職業は大工…いや「この時期は、猟師
 だな」と、笑みをこぼすミツさん。

一方、野牧さん。彼女は「浜松山里い
 きいき応援隊」として龍山町に赴任し、

まもなく1年。狩
 猟の免許状を取得

し、地域の課題を
 解決しようとして活躍
 中。しかも、ミツ
 さんの一番弟子だ。

「ほら、これ」
 野牧さんが見せ

てくれたのは、刃
 渡り7cmほどのナ
 イフ。さばく(解

体処理)のに使うのだと、説明を続けよ
 うとしたその時「もう、研いでは使って、
 使っては研いで、だいぶ短くなったぞ」
 とミツさん。

俺も同じものを使っているだよと、う
 れしそうにもう一つ見せてくれた。

「同じものが二つあってな。だから綾乃
 に渡したんだ。話せば長くなるだが、も
 う一つが俺のもとに回ってきてさ」

ベテランの、ベテランたる理由

21歳から猟師をしているミツさん。そ
 のきっかけを尋ねると「宮澤家代々、猟師」
 とのこと。



小学生の頃から「親が獲ってきたもの
 をさばくのが仕事だった」というのだか
 ら、この道50年以上のキャリアになるミ
 ツさん。

「シカが増えたのは、ここ20年くらい。
 山の手入れが行き届かなくなり、山にエ
 サがなくなるとシカが里まで下りてきた。
 人と動物との境界、がなくなってきた
 ようだね」と語る。

時代とともに、環境や生活様式、その
 ほかささまざまなものが変化してきた。

聞けば最近、猟師仲間がイノシシに噛
 まれたらしい。ミツさんもこれまで何度
 かピンチがあったそうだが「今日まで、

ほら、無事だよ」とにっこり。

なぜ事故に遭遇しないのか。その秘訣
 を聞いてみると「まあ、虫よけスプレー
 くらいはやってるよ」とのことだ。

仲間のアクシデントを聞いては現場に
 出てそれを予見する。そして「いざとい
 う時はな、一瞬で、しっかりと考えることだ
 と言いつけるミツさん。

その真剣な眼差しに、野牧さんも大き
 くうなずく。

一番弟子の、力量

「ほかの猟師よりもうまいよ、さばくの
 は。へんなクセ、がなくていい。数を
 どんどんこなしていけば、綾乃はもっと
 もっと、うまくなる。」

俺なんか2時間あれば(さばくことが)
 できる。時間が経てば経つほど、鮮度は
 低下していくし、もちろん、適正な管理
 も大事だ」と力を込める。

「さばき方の違いで、肉のうまみは全く
 変わってくる。おっと、これはだれにも
 教えちゃダメだぞ」

ミツさん流の、究極の業、があるのだ。
 これを、そっと一番弟子だけに伝授する。

その先の、味

「これで、龍山のジビエはうまいって、
 評判になること間違いなし！そんなシナ
 リオになるんだがな。今、ジビエが注目

されている。どこにも負けん味が龍山に
 はあるって。でも、残念ながら、解体処
 理施設の整備がこれからなんだよ。もう
 少し待ってな」とミツさん。
 計画は密かに進められているようだ。

ミツさんとその一番弟子の目には、そ
 の先の龍山の味はつきりと見えている。



▲龍山町下平山地区にて (撮影者：野牧綾乃さん)

暮らしが見える。感じる体温。
 Tenryu + Plus

一番弟子だけに伝授
 「究極の業」

「味、のある暮らし case.10 「その先の、龍山の味」

